



「大寒の 大々とした 月よかな」

小林一茶

今月20日は、「大寒」です。「大寒」は、二十四節気のうちの一つで、一年で一番寒くなるといわれている日です。この大寒を過ぎると、きびしい寒さもやわらぎ、徐々に温かくなり、春を迎えることとなります。私たちが生きている日本には四季があり、その四季が私たち日本人の豊かな情緒をつくっているのだと言われています。そのように思うと厳しい寒さも乗り越えられます。

生き物を飼うこと

先日、ある小学校を訪ねた時に大きな小屋がありました。その中には、それまでその小屋の主人公であったであろう、ウサギがいませんでした。

今は、子どもの安全や健康との関係で学校でそのような動物を飼うことがなかなか難しくなっています。ウサギがいた頃は、子どもたちが草を与えて、「ウサギさん、今日も元気？」などと声をかけてかわいがっていたものです。このことが、子どもにとって大切な情操教育になっていたように思います。主人公がいなくなった小屋を見て、少し寂しい気持ちになりました。

みなさんのお宅では、「犬を飼いたい」「猫を飼いたい」「金魚を飼ってもいい？」などと子どもから願いをされたことはありませんか。その時に「だめよ、うちにはそのようなものを飼う余裕はないのよ」「ちゃんと責任をもって飼えるの？」などと答えられ、子どもが渋々諦めるといった家庭もあるのではないのでしょうか。また、今飼うことを悩んでおられる家庭があるかもしれません。

アパートであったり、マンションであったり、また、一軒家に住んでいたとしても近所への迷惑のことを考えると犬や猫を飼うということは難しい家庭も多いでしょう。しかし、生き物を飼うということは、子どもに大切な情操教育をする上でとても意義があることなのです。

生き物を飼い、育てることは、子どもの心に思いやりの心を育み、優しい人間にしてくれるという、とても大切な営みになります。犬であれば散歩をさせたり、他の小動物でも餌を与えるなど、いろいろ面倒な作業があります。それをしないと死んでしまうのです。そこで、「途中で飼うことを投げ出さない」「自分が責任をもって世話をすること」などの約束ができれば、飼ってやりたいものです。そして、生き物を飼うことで責任感が育ったり、死に立ち会ったときには、生命の尊厳について考えることができたりと子どもにとってとても大切なことを学ぶことができます。このように、子ども時代に生き物を飼うということは子どもにとって得難いものがあるように思います。

いろいろな事情もあるでしょうが、アパートやマンションでも水槽で金魚を飼ったり、カゴでカブトムシなどの昆虫は飼えたりするのではないのでしょうか。できれば子どもから要求された時には、可能であれば飼ってやりたいものです。我が家でもメダカと金魚を飼っているのですが、餌をやる時には寄ってきます。本当に可愛く感じられ、癒されます。子どもだけでなく、ストレスにさらされている大人にもいいものですよ。

(文責＝青少年育成センター指導員 藤村)